

ユーザ調査現場における モニタプロファイリング手法の検討

～ペルソナ構築へ向けて～

ユーザ情報の分析やペルソナ構築へ向け、調査参加モニタの言動や振る舞いだけでなく人柄や嗜好に対しても分析対象とする傾向がある。

モニタと対面しユーザ情報を分析する立場から、効率的にモニタをプロファイリングする手法について紹介する。

モニタのプロファイリングが必要なユーザ調査では、どのようにモニタの情報を記録し、どのように調査メンバーで情報を共有するのが、重要である。

ここに提示したモニタ情報の記録・掲示方法を行うことで、以下のメリットなメリットがあると考えている。



メリット

モニタ情報を長く鮮明に記憶できる

大勢でモニタ情報を共有できる

資料内でモニタを容易に判別できる

モニタ情報の記録方法

似顔絵アイコンを描く



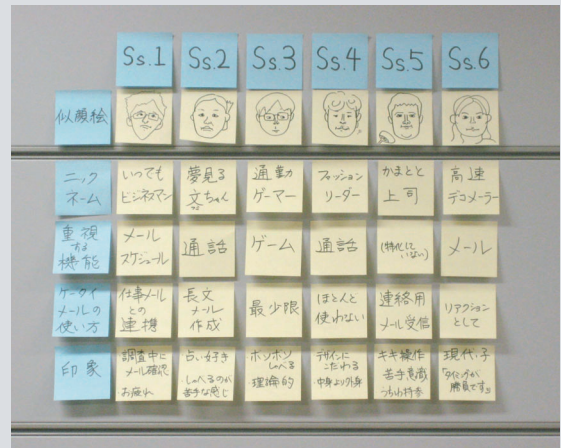
ニックネームを付ける

「敏腕サポーター」「オールラウンド管理者」など、調査でわかった事柄、見た目から受けた印象を織り交ぜながらニックネームを付ける。

特徴となる要素を書き出す

観察から明かになったモニタの特徴を書き出していき、予め一覧にしたい項目を設定し、その事柄について、一言程度にまとめる。

モニタ情報の掲示方法

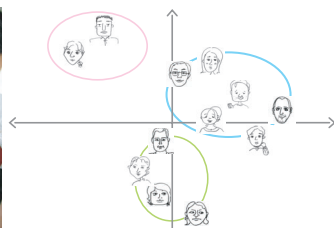


モニタ情報を付箋紙に記述し、一覧できるように観察室に貼り出す。調査関係者全員が確認することで、似顔絵やニックネームの記号性が高まり、分析時、報告書作成時に効果的に活用できる。

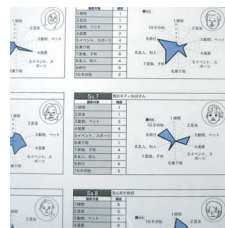
似顔絵アイコンの活用事例



デブリーフィングで
モニタ分析



マッピングして
ユーザセグメントを検討



報告書内に貼り付けて
モニタを判別



C Dラベルに
アイコンとして利用



プロフィール情報を
カードにして携帯